

このたび、新潟原動機は環境問題に対する取り組みを皆様に幅広くご理解いただくために環境報告書を発行することに致しました。

「ニイガタ」は 1919 年に日本最初の産業用ディーゼルエンジンの製造を開始以来、省エネルギー・環境調和型エンジンを開発、商品化をすることでエンジン分野ではパイオニア的役割を果たしてまいりました。2003 年に新潟原動機として発足後も、当社の原動機及び関連商品は、船舶推進用・産業用・発電用・車両用として様々な分野でご利用いただいております。

当社の製品は製造と運用において限りある天然資源と化石燃料を使用しており、その過程で生じる環境への負荷を削減するために、今まで以上に省燃費、省資源、CO₂、NO_x等の排出量の削減を進めております。

例を申しますと、ディーゼルエンジン、ガスエンジン及びガスタービンの効率向上による省エネルギーと省資源を図り、これらの原動機を用いた熱電併給システムでは総合効率が業界の水準を越えた高い効率を発揮しております。また、従来廃棄されていたものから取り出したバイオマスガス、揮発性有機化合物（VOC）等を燃料として利用を促進するなど、原動機に携わる最先端企業としての使命感を持って環境配慮型商品の開発を進めております。

もう一方の、ものづくりにおける環境負荷の対応についても、企業としての社会的責任を果たすため、生産活動の中で環境負荷の低減に努め継続的改善を図っております。また、ISO14001 の認証にも早い時期から積極的に取り組み、2001 年 9 月に認証を取得しています。

環境の世紀といわれる 21 世紀において、当社が引き続き社会に必要とされる企業となるために、今後も環境負荷の改善に寄与できる商品の提供と生産活動における環境保全に努めてまいります。

新潟原動機株式会社
代表取締役社長

橋本 伊智郎



事業の概要

下記製品の製造、据付、販売およびメンテナンスを主な事業としています。

○ 内燃機関および関連機器

船用ディーゼル機関

4サイクル 90～21,800kW 漁船、客船、貨物船、
高速艇、作業船、その他各種船舶用主機および補機、
遠隔操縦装置、機関監視装置



陸用ディーゼル機関

4サイクル 32～21,800kW 発電用、ポンプ用、コンプレッサ用、その他一般動力用機関、脱硝装置、機関監視装置



車両用ディーゼル機関

ディーゼルカー用、ディーゼル機関車用、産業車両用



ガス機関

ガス機関およびデュアルフューエル機関

ガスタービン機関

200～10,000kW 発電用、ポンプ用



Z型推進装置

Zペラ



ガイスリンガー継手およびダンパ

燃料噴射ポンプ、燃料弁

自家発電設備



○ 鋳造品

内燃機関及び産業機械用の鋳鉄品・特殊鋳鉄品（ノジュラ、
バーミキュラ、耐熱鋳物など）



2005年度の主な活動

世界初のディーゼル機関起動時排出黒煙低減装置CTCを納入。（2005年3月）

世界初の副生ガソリン発電装置CNTM-3CR型1号機が稼動開始。（2005年4月）

ガスエンジン28AGが世界最高発電効率47.6%を達成、IHIと共に記者会見を実施。
（2005年9月）

船舶用電気推進装置「液体窒素冷却全超電導モーターの開発」（IHIなど7社1大学での
産学共同開発）で日刊工業新聞・文部科学大臣賞を受賞（2006年4月）